

2021 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科  | 言語聴覚士学科 |                 | 科 目 区 分                                    | 専門分野                  | 授業の方法  | 講義            |
|--|---------|-----------------|--|-----------------------|--|---------------|
| 科 目 名  | 音声障害    |                 | 必修/選択の別                                    | 必修                    | 授業時数(単位数)                                    | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年  | 二年次     |                 | 学期及び曜時限                                    | 前期 木曜2限 他             | 教室名  | 405教室         |
| 担 当 教 員  | 西村祐一    | 実務経験と<br>その関連資格 | 急性期から生活期病院にて5年間実務経験あり。                     |                       |  |               |
| 《授業科目における学習内容》   |         |                 |  |                       |  |               |
| 音声障害の種類と内容、検査法、および治療・訓練の理念とその方法について習得する。音声障害について専門的な知識・技術を身につける。 |         |                 |  |                       |  |               |
| 《成績評価の方法と基準》   |         |                 |  |                       |  |               |
| 筆記試験(100点)で評価する。   |         |                 |  |                       |  |               |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》  |         |                 |  |                       |  |               |
| 【教科書】「言語聴覚士のための音声障害学」 医歯薬出版<br>【参考図書】「言語聴覚士ドリルプラス 音声障害」 診断と治療社   |         |                 |  |                       |  |               |
| 《授業外における学習方法》  |         |                 |  |                       |  |               |
| テキストの精読・授業のまとめレポート   |         |                 |  |                       |  |               |
| 《履修に当たっての留意点》  |         |                 |  |                       |  |               |
| 発声発語にかかわる神経・筋肉の機能・構造・病態を理解したうえで音声障害を診れるようになって欲しい                 |         |                 |  |                       |  |               |
| 授業の方法  | 内 容     |                 |  | 使用教材                  | 授業以外での準備学習の具体的な内容                            |               |
| 第1回  | 講義形式    | 授業を通じての到達目標     | 声の特性と物理的特徴について理解し、説明できるようになる。              | 教科書<br>参考図書<br>配布プリント | 配布資料の通読とまとめ、授業内容のまとめ、授業終了時に示す課題を実施、参考テキストの精読 |               |
|  |         | 各コマにおける授業予定     | 声の特性・機能について                                |                       |  |               |
| 第2回  | 講義形式    | 授業を通じての到達目標     | 発声の生理とその調整(神経系の制御と呼吸調節)について理解し、説明できるようになる。 | 教科書<br>参考図書<br>配布プリント | 配布資料の通読とまとめ、授業内容のまとめ、授業終了時に示す課題を実施、参考テキストの精読 |               |
|  |         | 各コマにおける授業予定     | 発声の生理とその調整(神経系の制御と呼吸調節)について                |                       |  |               |
| 第3回  | 講義形式    | 授業を通じての到達目標     | 発声の生理とその調整(喉頭調節)について理解し、説明できるようになる。        | 教科書<br>参考図書<br>配布プリント | 配布資料の通読とまとめ、授業内容のまとめ、授業終了時に示す課題を実施、参考テキストの精読 |               |
|  |         | 各コマにおける授業予定     | 発声の生理とその調整(喉頭調節)について                       |                       |  |               |
| 第4回  | 講義形式    | 授業を通じての到達目標     | 音声障害の定義と病態を理解して、その特徴を説明できるようになる            | 教科書<br>参考図書<br>配布プリント | 配布資料の通読とまとめ、授業内容のまとめ、授業終了時に示す課題を実施、参考テキストの精読 |               |
|  |         | 各コマにおける授業予定     | 音声障害の定義と病態について                             |                       |  |               |
| 第5回  | 講義形式    | 授業を通じての到達目標     | 音声障害の種類を理解して、その特徴を説明できるようになる               | 教科書<br>参考図書<br>配布プリント | 配布資料の通読とまとめ、授業内容のまとめ、授業終了時に示す課題を実施、参考テキストの精読 |               |
|  |         | 各コマにおける授業予定     | 声帯の器質的病変、運動障害に基づく音声障害、その他の音声障害             |                       |  |               |

| 授業の方法 |        | 内 容         |  | 使用教材                  | 授業以外での準備学習の具体的な内容                            |
|-------|--------|-------------|--|-----------------------|--|
| 第6回   | 講義形式   | 授業を通じての到達目標 | 検査の種類と目的、基本的な検査の方法について理解し、説明できるようになる   | 教科書<br>参考図書<br>配布プリント | 配布資料の通読とまとめ、授業内容のまとめ、授業終了時に示す課題を実施、参考テキストの精読 |
|       |        | 各コマにおける授業予定 | 検査の種類と目的、基本的な検査の方法について                 |                       |  |
| 第7回   | 講義形式   | 授業を通じての到達目標 | 評価と鑑別診断について理解し、説明できるようになる              | 教科書<br>参考図書<br>配布プリント | 配布資料の通読とまとめ、授業内容のまとめ、授業終了時に示す課題を実施、参考テキストの精読 |
|       |        | 各コマにおける授業予定 | 評価と鑑別診断について                            |                       |  |
| 第8回   | 講義形式   | 授業を通じての到達目標 | 治療法の種類、音声治療の種類と理念について理解し、説明できるようになる    | 教科書<br>参考図書<br>配布プリント | 配布資料の通読とまとめ、授業内容のまとめ、授業終了時に示す課題を実施、参考テキストの精読 |
|       |        | 各コマにおける授業予定 | 治療法の種類、音声治療の種類と理念について                  |                       |  |
| 第9回   | 講義形式   | 授業を通じての到達目標 | 声の衛生指導、音声訓練の目的・種類・適応について理解し、説明できるようになる | 教科書<br>参考図書<br>配布プリント | 配布資料の通読とまとめ、授業内容のまとめ、授業終了時に示す課題を実施、参考テキストの精読 |
|       |        | 各コマにおける授業予定 | 声の衛生指導、音声訓練の目的・種類・適応について               |                       |  |
| 第10回  | 講義形式   | 授業を通じての到達目標 | 音声訓練の方法について理解し、説明できるようになる              | 教科書<br>参考図書<br>配布プリント | 配布資料の通読とまとめ、授業内容のまとめ、授業終了時に示す課題を実施、参考テキストの精読 |
|       |        | 各コマにおける授業予定 | 音声訓練の方法について                            |                       |  |
| 第11回  | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 音声訓練を実施できる                             | 教科書<br>参考図書<br>配布プリント | 配布資料の通読とまとめ、授業内容のまとめ、授業終了時に示す課題を実施、参考テキストの精読 |
|       |        | 各コマにおける授業予定 | 音声訓練の演習実施                              |                       |  |
| 第12回  | 講義形式   | 授業を通じての到達目標 | 無喉頭音声、気管切開患者への対応について理解し、説明できるようになる     | 教科書<br>参考図書<br>配布プリント | 配布資料の通読とまとめ、授業内容のまとめ、授業終了時に示す課題を実施、参考テキストの精読 |
|       |        | 各コマにおける授業予定 | 無喉頭音声、気管切開患者への対応について                   |                       |  |
| 第13回  | 講義形式   | 授業を通じての到達目標 | 無喉頭音声患者の実際を理解し、説明できる                   | 教科書<br>参考図書<br>配布プリント | 配布資料の通読とまとめ、授業内容のまとめ、授業終了時に示す課題を実施、参考テキストの精読 |
|       |        | 各コマにおける授業予定 | 清音会患者との交流と体験談を聞く                       |                       |  |
| 第14回  | 講義形式   | 授業を通じての到達目標 | 気管切開患者の実際を理解し、説明できる                    | 教科書<br>参考図書<br>配布プリント | 配布資料の通読とまとめ、授業内容のまとめ、授業終了時に示す課題を実施、参考テキストの精読 |
|       |        | 各コマにおける授業予定 | 清音会患者との交流と体験談を聞く                       |                       |  |
| 第15回  | 講義形式   | 授業を通じての到達目標 | 音声障害について理解し、説明できるようになる                 | 教科書<br>参考図書<br>配布プリント | 配布資料の通読とまとめ、授業内容のまとめ、授業終了時に示す課題を実施、参考テキストの精読 |
|       |        | 各コマにおける授業予定 | 復習・まとめ                                 |                       |  |